

# MECCだより

武蔵野・多摩環境カウンセラー協議会広報紙 第39号 2015年 11月

## もくじ

マリナ・シルバさん（元ブラジル環境大臣）の講演を聴講して	川口 尚文
環境教育インストラクターセミナー実施報告	泉 浩二
環境教育インストラクターセミナー ワークショップ報告	一條 美智子
武蔵野エコアップ協議会セミナー実施報告	林 鷹央
環境カウンセラー制度改革提言のためのブロック意見交換会報告	望月 眞

## マリナ・シルバさん（元ブラジル環境大臣）の講演を聴講して

川口 尚文

毎日新聞社が「モッタイナイ10周年キャンペーン」で招聘した「シルバさんと語ろう 地球の未来」のシンポジウム・講演会が10月13日夕刻、上智大講堂で行われ、



(ニュースサイトMEGABRAZILより)

聴講券（抽選）を入手し参加した。

450人程の聴衆の前にポルトガル語の同時通訳で講演され、それに続いて識者（5人）によるシンポジウムが開催された。筆者はこの著名

な世界的な熱帯雨林保護活動家を知らなく恥いる次第だったが、その経歴や現在の活動には大変感銘を受けた。細身の彼女は57才になられているが、何しろ16才まで文字が読めない環境（ジャングルの奥地）で育てられマラリヤや水銀中毒（ご本人はアンチモンにも関連し真因不明と言われた）にかかり母親を早くに亡くすなど幾多の困難があったが、それらを克服され36才で上院議員に当選し、03～08年の環境相時代にはアマゾンの違法な森林伐採の摘発で抜群の効果を収めてきた。その後ブラジルの大統領選に出馬するなど活躍され、09年には国際的に優れた環境保護活動家に贈られる「ソフィー賞」を受けられている。現在故ワンガリ・マータイさんの後を追って世界で活躍

されている環境保護の旗手である。

今回初来日となったが、精力的に福島・広島各地を廻られ示唆に富んだ言行や訴えを残されているが、この講演を含めて筆者が特に心に残った事柄・言行を以下にまとめてみる。

・持続可能な開発モデルとは、「次の世代をリスペクト（尊敬）」することから始まる。環境は子孫からの借り物というアフリカの言い伝えや「モッタイナイ」に代表される。

・科学技術での不都合は、科学技術だけでは解決できない。（環境倫理）

・我々は「自由」を勝ち得たが、その自由だけでは未来は創造できない。

・「良いもの」の開発を続けることは無限となるが、そうすると「危機」に気づくのが遅れる。

・過去に滅んだ（古代）文明は、自らの危機の自覚が乏しかったからだと思う。今我々は、危機（社会・経済・環境・政治・倫理・道徳さらに美的センス）を自覚している。だからこそ「手が打てる」はずである。

・「現実、質問がなされたのと同じ言語をもって答える」との言葉がある。だからいつも同じ質問を繰り返すのはよそう。

これらの内容は奥深いものと思う。今の「不都合」を次の世代で解決させる（任せる）というのは「リスペクト」しているのだろうか。「無限」の開発はどこが「途中」なのか気づくのは困難であろう。この聴講で意（志）を強くさせていただく事ができ良かった。

## 環境教育インストラクターセミナー実施報告

泉 浩二



このたび「ECU環境教育インストラクター応募資格取得セミナー（主催ECU、東京連合会、MECC）」をMECC主担当で実施いたしました。

日時：平成27年7月25日、26日

会場：東村山市市民ステーションサンパルネ会議室

○準備・当日・事後処理

MECC主担当ということで、会場設定、環境省等後援依頼、各方面への広報・参加者募集・プログラム検討・講演依頼、テキスト等の作成・収集、当日の運営、完了報告、会計など多岐にわたる事項について3月頃から当日7月25、26日を挟み、9月までに概ねの事後処理をしました。



○いくつかのトピック

①MECC主担当での実施は初めてのことで、上記各事項にわたって、これまでのECU、東京連合会での蓄積資料を参考にしながら、半分手探り状態での準備でした。この過程で、ECU、東京連合会とのコミュニケーション不足により問題も発生しましたが、チラシの印刷前に調整し、事なきを得ました。

②募集チラシの印刷費が思ったより安く、予定より多い千部印刷することができました。

配布は多摩各地の会員及び東京連合会内の各EC協議会にも協力依頼しました。

チラシを公民館等においただけではなかなか効果はなく、やはり人と人のつながりで手渡しできると効果があるように思われました。なんとか二ヶ台（10人）にしたいところで、申込数は10人を超えましたが、当日の参加者は9人でした。

③MECC内からは、セミナー準備会には7名、講演、当日支援等に5名、その他ECU、東京連合会からも3名参加いただきました。EC以外では、環境省職員、外部講師などの方々が参加され、総勢で18名になりました。

セミナー広報については、MECC内に呼びかけ多数の方にご尽力いただきました。

○MECC内を始め、外部の方も含め多数の方々の協力のもとでなんとか大過なく実施できましたこと、御礼申し上げますとともに、ここにご報告いたします。

## 環境教育インストラクターセミナー ワークショップ報告

一條 美智子

ワークショップは2日間にかけての長時間の取り組みであり、円滑で効果的な活動に向けアイスブレイキングからスタートした。

一日目は趣旨説明 ファシリテーター紹介・ワークショップの狙い・進行手順・タイムテーブル・参加の心構え等の講話後、グループに分かれてワークショップに入った。各々の活動・所属等の自己紹介に加え、司会進行等の役割分担等決められた。

前半の90分は、テーマ決定にむけ様々な方向から語り合い、一つひとつの意見をキーワード化し、メッセージとして紙に書いて貼る。それを分類すると様々な答えが見えてくる。テーマに結びつけることは必須だが、テーマに繋げるまでの意見交換は考

え方のトレーニングにもなり、環境問題に対する深まりが期待できると考える。

後半90分では、グループごとにテーマに従い資料を作り込む作業と、翌日の発表に向けて大きい模造紙に書いていく作業を行った。進捗状況に差が出ることを心配したが、時間配分内で過不足なく進むことができた。

環境教育インストラクターの登録申請には、このワークショップで実践する「環境プログラム作成」は必須であること、また帰宅後の座学時間を含む学習が単位認定の要件となることから、グループ作成のプログラムとは別に、個々の活動分野に即したプログラム作成を一日目のホーム課題（宿題）とした。



二日目は出席確認と同時にホーム課題の提出。午前中は、事例紹介の講話二件に続けて、成果発表に向け、グループ・プログラムの仕上げを行った。昼食をはさみグループごとの発表及び質疑応答が活発に行われた。地についての発表であり、参加者全員が偏りなく作業に取り組めており、発表に際しても双方向の質疑が行われていた。

インストラクターの資格手続きに関する説明後、全員修了証を受け取り、講習を無事に終了したが、一人でも多くの方がインストラクター登録を行って下さる事を願ってやまない。

さて、当初から頭の痛かった参加者数は、申し込み者10名以上から実質参加は9名となったが、既に何かの形で企業や地域での活動を持ち、目的をある程度持った方々の参加あり中身の濃い学習に繋がったように感じる。当日、ワークショップの編成に迷ったが、思いきって2グループに絞ったことが的を射たようだ。構成人数や参加者の背景等々が成果にかなりの影響を及ぼすものと考ええる。

今後の課題として、インストラクターとなった後の更なる具体的な活動に繋ぐ方策を含むフォローアップが必要と思われる。



右端が筆者

## 武蔵野エコアップ協議会セミナー実施報告

林 鷹央

武蔵野エコアップ協議会で環境をテーマとしたセミナーを開催したいとのご要望があり、MECCにて同じ環境カウンセラーメンバーというご縁から、林家カレー子さんにお声掛けいただき、8月27日「楽しく学べる自然環境と生物多様性」の講師を担当させてもらいました。清楚な雰囲気の中三鷹駅周辺を通り、閑静な住宅街の中に会場の西久保コミュニティセンターがありました。今回はトーク&ライブ形式で、バンドのギターリストを伴って、生物多様性のお話と生物多様性ソングをみんなで歌う試みです。



自作曲を歌う筆者

最初の難関は、楽器演奏は控えてほしいとの会場からの要望でしたが、会場を地下階に移して行うことで、なんとかクリア!

過去には銀座で2010年に生きものに関する歌詞が出てくる「民謡」をピックアップしたトークセッション「生きもの祭り」、今年4月には「アースデイ東京」での生物多様性トークでは民謡と農家の作った

歌を演奏しました。が、全編オリジナル曲で90分(すみません、2時間やってしまいました)は今回が初めてです。実は2015年の5月から何かに憑かれたのか急に作詞作曲するようになったのですが、生きもの調査指導で小学校や大学を訪れた時に試しに歌ってみたところ、あまりに受けが良いので大人相手にもやってみたくなっていたところでした。

大人は子供と違いプライドが高いので、一緒に歌ってくれるか心配でしたが、甘い苦いも経験した方々のノリだけではない唱和をいただくことができました。

当日の話の流れは1:まずは自分自身の体の健康、体内に目を向けバランスを整える「♪腸内フローラ」。2:生物多様性3つの柱を知って地球と先祖と兄弟に感謝「♪生物多様性」。3:土の健康と生物多様性についての子供達に人気の曲「♪キンコンキン」。4:生命が終わると微生物たちに分解されて別の命の糧となって巡るという、身土不二(※)ー炭素循環の話「♪炭ユニバース」でした。

MECCの諸先輩方に支えられてセミナーを担当させていただけたことにお礼を申し上げます。

※:身土不二(しんどふじ) = 「身体と土は二つに分けられるものではなく、同一である」という、その土地で営まれた長い歴史も含めた土を大事にする民族思想の一つ。

## 環境カウンセラー制度改革提言のためのブロック意見交換会報告

望月 眞

環境カウンセラー全国連合会 (ECU) が主催する掲題の関東地区Aブロック会議が、10月4日に横浜で開催され、当協議会より筆者と宇野氏の2名が参加した。ブロック会議での議事内容を報告する。

本会議の開催趣旨は、昨年環境カウンセラー制度検討委員会によって同制度の課題や改革についての報告書「環境カウンセラー制度の在り方について」が出されたが、環境カウンセラー全国連合会としての制度改革提言を行うため討議するものである。

全国にある環境カウンセラー協(議)会を8ブロックに分け、関東地区Aとして東京4団体(杉並、城北、城南、MECC)、千葉、神奈川、静岡の計7団体に所属する環境カウンセラー21名が参集した。神奈川は開催地ということもあり半数以上を占めたが、他の団体は1~2名の出席にとどまり、おそらく会員登録者数から見れば全国最多であろう当ブロックとして、いささか残念にも思える参加者数であった。

会議では冒頭、佐々木理事長より本制度の現状として、環境カウンセラー登録者の減少、認知度や活動の停滞などの課題が挙げられ、制度改革にECUとしてどんな提言ができるかという議題の投げかけがあった。そのあと参加者を4グループに分け、ワークショップ形式でグループ討議を行い、その結果をECUでまとめて後日関東Aブロックの提言とすることになった。



筆者が参加したグループは、神奈川2名、千葉・静岡・MECCの各会より1名の計5名で、環境カウンセラー登録者数を主題として、如何に減少を食い止めるとともに、これから登録を希望する人をどう増やすかについて熱心に討議した。その結果当グループからは、神奈川県横須賀市では環境教育制度において、実施要件に環境カウンセラーが明記され、環境カウンセラーの活用が担保されている等の報告があった。また市民部門の登録希望者には、環境に携わった業務経歴を公の組織の代表者として証明できない場合があり、協議会代表者がNPO法人として活動履歴を証明するなどの支援を行う等、環境カウンセラー希望者への支援策が提案された。協議会などの組織でなければなし得ないことがあることは、筆者にとっても参考になった。

ともすると制度改革について環境カウンセラー個々に意見を求めると、環境省や自治体に対しての恨み節を多く耳にするが、こうした建設的な意見を聞くと制度改革をネガティブにとらえず、むしろチャンスであると感じた会議でもあった。



発行者：NPO 武蔵野多摩環境カウンセラー協議会(MECC)事務局

〒189-0026 東村山市多摩湖町3-5-11 泉 浩二

TEL：042-391-2239

ホームページ：http://www.mecc.or.jp/

編集者：望月 眞